

(2) 果 実

全体の動向と見通し

8月と9月の実績

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	8月の取扱実績 (計)				9月の旬別取扱実績							
						上旬				中旬			
		入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数		54,533	93	283	99	16,520	103	283	95	16,880	46	277	92
みかん類		1,989	94	722	98	889	105	551	94	1,887	142	364	64
かき類		40	69	1,063	108	75	158	697	80	777	326	348	63
りんご類		2,331	111	352	101	2,280	145	293	102	2,335	102	294	120
(つがる)		1,374	178	295	92	1,824	146	296	103	1,941	102	297	121
(ふじ)		610	70	471	118	10	260	428	120	1	-	322	61
なし類		11,507	100	303	93	5,448	99	206	84	5,434	85	178	80
(西洋なし)		-	-	-	-	29	132	298	101	118	101	235	81
ぶどう類		3,914	99	604	98	1,557	104	540	95	1,321	79	579	97
(デラウエア)		1,462	82	459	99	196	77	517	108	89	49	524	109
メロン類		3,331	70	332	118	692	95	367	101	607	89	410	99
すいか類		11,588	86	99	83	639	108	84	55	196	64	93	75
くり		59	424	491	72	387	262	367	67	612	106	290	82
外国産果実総数		8,915	87	143	117	2,869	93	134	102	2,762	88	136	104

概況

なし、りんご、みかん、ぶどうが果実取扱量の上位になると、市場の売場は、秋たけなわだ。

果実全体の6割を占めるこれら品目のうち、みかん類はハウスものから極早生ものへと切り換え期ながら入荷の大幅増で大幅安。りんごは、つがるを中心に昨年とうって変わって大幅増ながら品質良好により堅調で推移した。ぶどう(デラウエア)は貯蔵ものにかわったが、入荷減もあって堅調。洋なしの入荷は前年より多く、前年を下回った価格となった。やはり、みかん類の入荷増と低価格が注目された。

なお、9月11日頃の台風15号の被害は、各地軽微の模様で、市場取引面での影響はなかった。

消費支出面では、本年4月以降前年同月比でマイナスに転じ、所得減少や雇用不安が広がっているようで、この消費不振が価格の足をひっぱっている。

こうした状態が、産地格差、品質格差、等級格差など「格差時代」を生んで、同一品目内で明暗を描く傾向が見える。価値あるものの出荷がポイントになっていることを、肝に銘じたい。

(10月の見通し)

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産前年10月実績	
		前年実績	前年比 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 (%)	5ヵ年平均	前年 入荷量	前年占有 率 (%)
極早生みかん類		21,593	105	21,826	180	111	221		
かき類 (刀根)		12,040	95	12,090	203	105	242	149	1.2
りんご類		7,508	115	8,750	275	100	277	1,743	23.2
なし類		6,793	75	5,502	220	105	284	230	3.4
(西洋なし)		808	100	802	310	100	367	214	26.5
ぶどう		2,173	75	2,383	632	105	655	139	6.4
メロン類		1,431	100	1,678	524	95	562	167	11.7
すいか類		208	105	230	189	100	212	3	1.5
くり		941	90	894	407	100	415	1	0.1

概況

10月の国産果実は、みかん、かき、りんごが3大品目で、この3品目のシェアは総入荷量の65%を占める。主要産地は、和歌山、長崎、愛媛、熊本、佐賀と西南暖地が上位を占め、青森、長野、山形は次のポジションとなる。

昨年は、みかん、かき、なし、ぶどう類が苦戦となって、果実全体の平均販売価格は222円/kgと前年の1割安となり、消費低迷を印象づけた。

今年の秋冬果実は、全般に順調な生育経過をたどり、品質、糖度の乗りと味が前年より勝っているため、内容充実に期待し、総入荷量前年比105%、平均販売価格同105~110%を予想している。

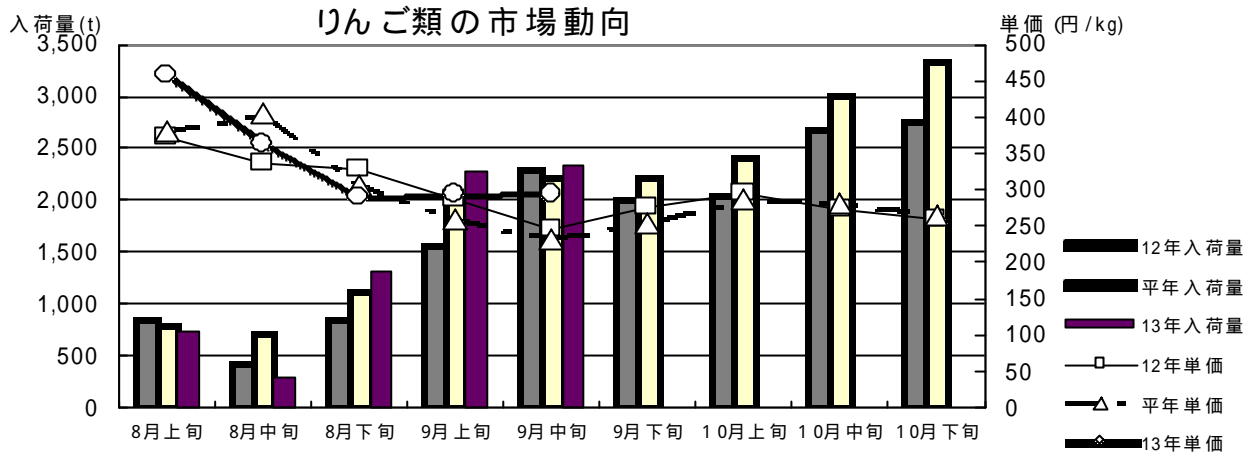
依然として景気底ばいによる消費不振や低価格志向、輸入増などで、厳しい状況が続くが、消費者は果実に対して、値頃感、おいしさ、安全性、機能性を求めている。小売店も独自性とか、差別化商品を全面に打ち出した販売を目指している。

「おいしい山形」名実ともに推進するため、おいしいものの計画出荷、安定供給を図るとともに、「おいしいもの」に売れる勢いを強化する情報や販促、宣伝活動を推進したい。

りんご

(1) 9月の販売状況

上旬	入荷量： 2,280 t (前年比 145)	価格： 293円 / kg (前年比 102)
中旬	入荷量： 2,335 t (前年比 102)	価格： 294円 / kg (前年比 120)



品薄から堅調な価格で推移した平成12年産貯蔵りんごを受け継ぐ形で、本年産りんご「つがる」の入荷が本格化し、長野、山形から青森産の流れで順調な入荷となった。干ばつで小玉傾向となった前年に比較して豊作傾向から、入荷量は大幅増となった。

9月に入ってから気温低下もあって、各産地とも着色が良いうえ、果肉がしまって品質が良く、入荷量が増えた割に、前年を上回る堅調な価格となった。

人気を博するには、本年のように「着色と果肉のしまり、成熟状況」を重視した出荷を市場では望んでいる。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

品目は、つがるなどを含むりんご類。

(2) 10月の見通し

入荷量
8,635 t
前年比 115%
平年比 99%

中生種も品質向上で市場評価向上！

価格
275円 / kg
前年比 100%
平年比 99%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

品目：りんご類

10月のつがるは後発の青森産が全入荷量の約90%を占める。青森産は、9月後半から出荷され、玉肥大も順調で、前年の1割弱増を見込んでいる。

長野、山形産は9月でつがるが終了し、10月下旬からふじの入荷が予想される。

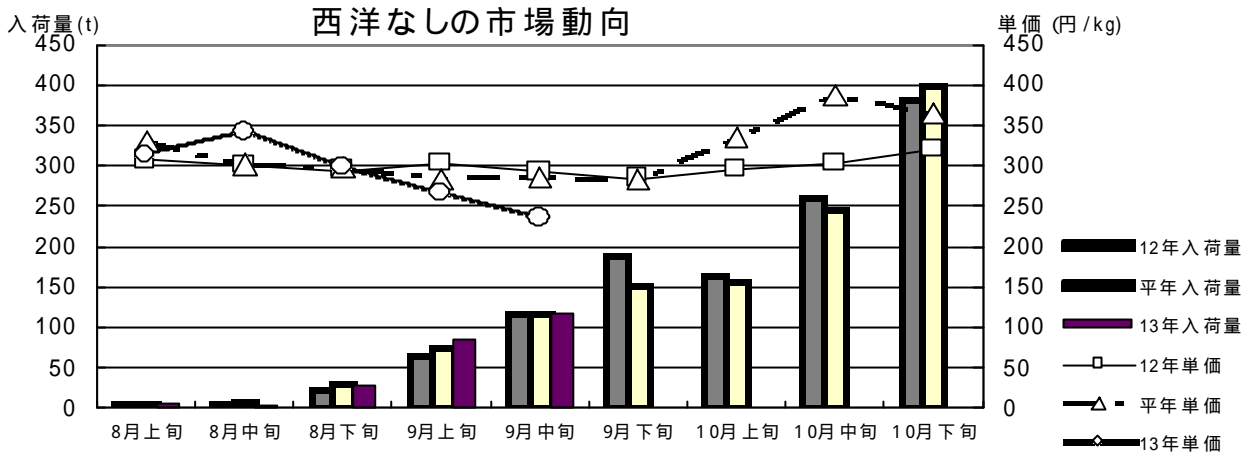
本年産は、品質が良いうえ、近年りんごの1個売りが定着してきており、小売りの利益を考えた価格設定で販売すれば、前年価格を下回ることなく堅調で推移しよう。

主な生産県の入荷見込み(10月)				作柄概況
県名	前年入荷量(t)	前年シェア(%)	前年比入荷見込(%)	
青森県	3,242	43.2%	109%	4月後半に低温を受けて心配されたが、その後の天候に恵まれ、前進傾向で玉の肥大も順調。8月以降夜温が低い関係で仕上がりは良好。
山形県	1,743	23.2%	100%	扁平果が見られるものの、果実の肥大は良好。生育進度は5日程度早めに推移している。

西洋なし (ラ・フランス)

(1) 9月の販売状況

上旬	入荷量 :	84 t (前年比 129)	価格 :	266円 / kg (前年比 88)
中旬	入荷量 :	118 t (前年比 101)	価格 :	235円 / kg (前年比 80)



秋田、山形、長野産が中心の出回り。各産地とも前進出荷傾向となって入荷量が増加し、洋なしとしては、前年を1~2割下回る250円/kg程度であった。

バートレットが主体で入荷したが、「可食適期」品でないものが多く、予冷・追熟の適正化が望まれた。このことは、後半の洋なし、ラ・フランスの消費まで影響を及ぼすことになるので、食べ頃出荷は、出荷前半から取り組みたい。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平均単価は5カ年単価の単純平均。

西洋なしの集計値。

(2) 10月の見通し

適期収穫とたべ頃で計画出荷を!

入荷量
810 t
前年比 100%
平年比 101%

価格
310円 / kg
前年比 100%
平年比 84%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

品目 : 西洋なし

10月は、引き続き長野、山形、秋田が3大産地で、3県のシェアは85%を占める。

主要品種のラ・フランスは、長野産が10月早々に姿を見せる。山形産も平年より1週間程度生育が前進している。

結果樹面積から見ると近年は年3%程度増加していることから、10月の販売戦線は激化へと進む。

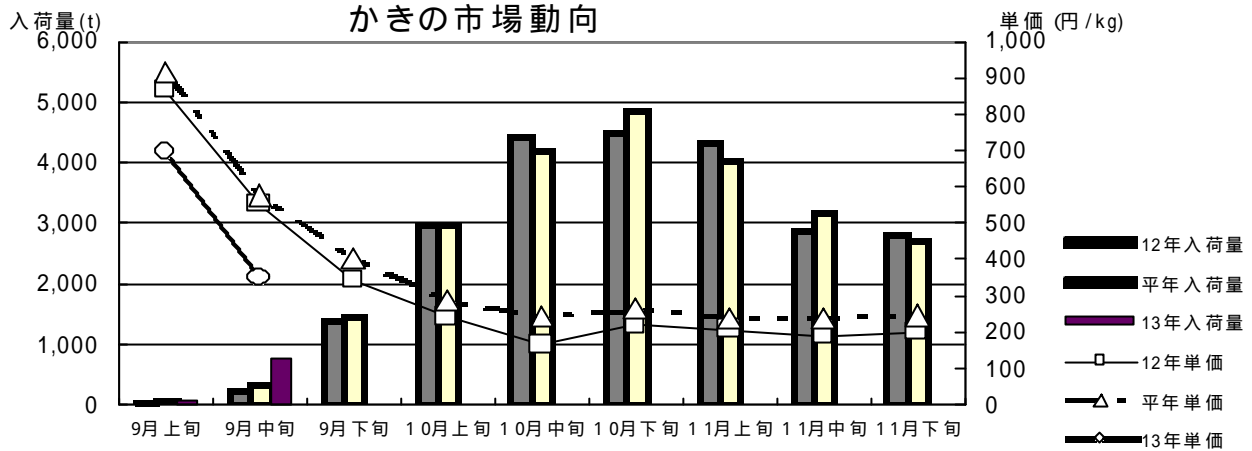
ことしも前年並の入荷量が見込まれ、前年並の310円程度に落ちつくのではなかろうか。

主な生産県の入荷見込み(10月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
長野県	277	34.2%	98%	平成13年度の面積は洋なし全体で144ha、うちラ・フランスが85%。春先の凍霜害の影響で着果不足も見られるが、面積増で量的には前年並。やや小玉傾向。収穫は昨年より3日程度早く、10月早々に出荷開始予定。
山形県	214	26.4%	100%	着果量はほぼ前年並となっている。生育進度は、前年並かやや早めと予想され、果実肥大も概ね良好である。病害については、中山間地域では一部カメムシの加害が見られ、輪紋病が散見される。
秋田県	195	24.1%	100%	作柄は5日程度生育が進んでいる。多かつた前年並の収穫量が見込まれる。基本的に山形産が出回る前に出荷期間を設定。

かき

(1) 9月の販売状況

上旬	入荷量：	75 t (前年比 160)	価格：	697円 / kg (前年比 80)
中旬	入荷量：	777 t (前年比 326)	価格：	348円 / kg (前年比 63)



9月は早生系の刀根が中心に、和歌山産 (シェア約80%) を主力として、奈良、岐阜、愛媛産などが出回った。おおまかに9月前半がハウス、後半以降が露地ものとなっている。

4~5日前進気味の出荷、総入荷量は前年を上回った。

販売価格は、350円 / kg前後で、食味が良かったが、価格は低迷した。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

品目はかき類を集計したもの。

(2) 10月の見通し

庄内柿は月末から戦列へ！

入荷量
11,440 t
前年比 95%
平年比 95%

価格
213円 / kg
前年比 105%
平年比 81%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

10月は刀根の最盛期ではじまる。栽培面積は概ね前年並。入荷量は前年より減少する産地、2割増を見込む産地とまちまちだが、全体的には多かった前年を下回る見込み。

本年は着色も良く、糖度の乗りや味もよく仕上がっているため、安かった前年を上回るのではなかろうか。

平核無は、和歌山産など10月15日頃から入荷見込み。山形産は25日頃からの入荷となろう。

なお、各果実とも例年になく品質・量とも充実していることから、10月はかなり激戦となることは必死。品質、選果等に十分気配りして、商品性向上に努めたい。

主な生産県の入荷見込み (10月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
和歌山県	4,268	58.3%	80%	15日前後に平核無に切りかわる。小玉傾向で前年を下回る見込み。
奈良県	1,934	26.4%	90%	昨年より5~7日早いペース。着色と糖度の乗りは良好。
新潟県	634	8.7%	120%	昨年より3~4日早く、9月末から出荷開始となった。台風による落果なく、不作だった前年の2割増が見込まれる。着色は良好。